

経営比較分析表（平成29年度決算）

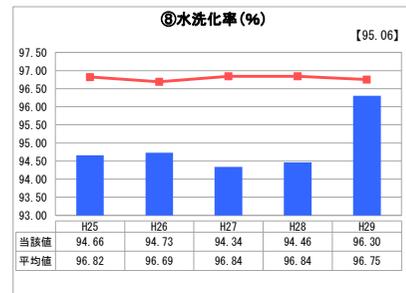
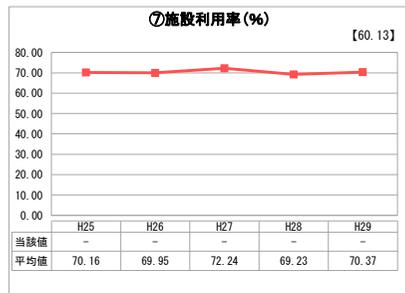
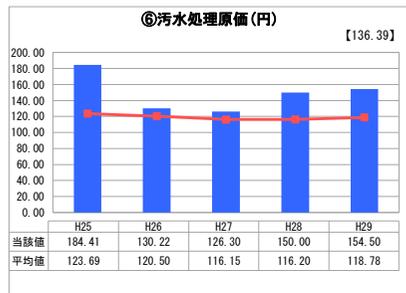
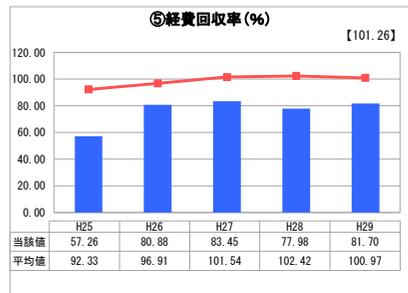
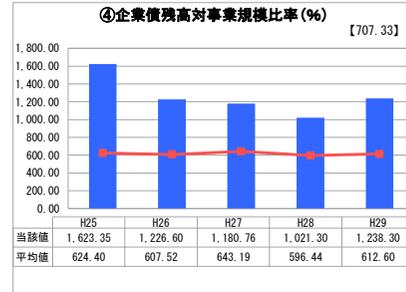
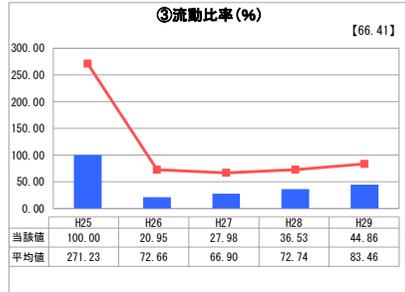
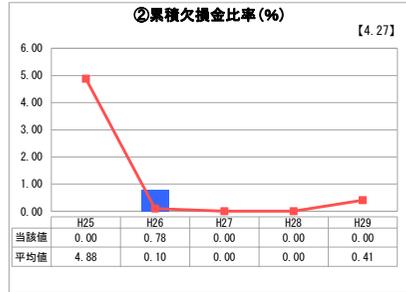
埼玉県 春日部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	42.81	88.14	89.59	2,333

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
235,716	66.00	3,571.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
207,461	22.24	9,328.28

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①②経常収支比率、累積欠損比率
 経常収支比率は100%を上回っているが、使用料収入の不足分を一般会計補助金で補っている状況にあるため、引き続き、水洗化率の向上による使用料収入の増加及び不明水解消による維持管理費用の削減に努める必要がある。

③今後は企業債残高の減少に伴い流動比率も増加していくものと考えられるが、当面の間は100%を下回ることが想定されるため、短期的な債務に対する支払いには留意する必要がある。

④初期投資の企業債や資本費平準化債の借入により類似団体平均より大きく増加しているのは、企業債現在高のうち一般会計が負担する額が見直されたためであるが、今後は残高が減少傾向となる見込みである。

⑤⑥経費回収率、汚水処理原価
 改めて分流式下水道に要する経費の算出方法を見直したこともあり汚水処理原価が上昇したが、平成28年度中に行った使用料改定が通年で反映されたことにより経費回収率は前年度を上回った。
 今後は、使用料の適正化について検討していく必要がある。

⑧水洗化率については、算出方法を精査したところ前年度を上回り、類似団体平均に近づいている。

2. 老朽化の状況について
 ①有形固定資産減価償却率
 平均値と比較して低い値であり、法定耐用年数に近い資産は比較的少ないといえる。

②管渠老朽化率
 当市の値は「0」であり、法定耐用年数を超過した管渠はない。

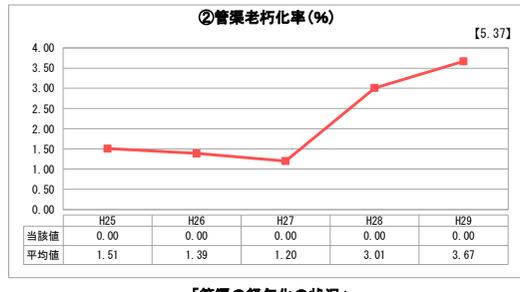
③管渠改善率
 老朽化の度合いが低いといえる。

老朽化の程度は低いが、将来の更新時期に備えて長寿命化計画に基づいた計画的・効率的な維持管理に取組んで行く必要がある。

全体総括
 経営状況が厳しさを増す中、策定した経営戦略に基づき、経営基盤の強化を図り、持続可能な経営が求められる。
 これに当たり、水洗化率の向上による使用料収入の増加および不明水解消による汚水処理費用の削減に取り組む必要がある。

また、下水道管渠や中継ポンプ場施設の老朽化及び震災などの災害に対応するため、計画的・合理的な維持管理・更新を実施していく必要がある。

2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。